

## 「制服着こなしセミナー」が開催されました

4月20日（水）の3時間目に新入生対象の「制服着こなしセミナー」が開催されました。長野菅公学生服株式会社の渡邊さんがパワーポイントを使って、カッコイイ！制服の着方を教えてくださいました。

その話の中には、「目からウロコ」の情報が満載でしたので、そのいくつかを、この紙面を使い皆さんにご紹介したいと思います。



### その① 「制服はオフィシャル・ウェアである」

オフィシャル・ウェアとは、社会的・社会的な意味合いを持つ服装だということです。「自分は東御清翔高校の生徒であることを自覚し、他人からもそう思ってもらうことにより、学生としての安全を確保する」意味があります。また、日常生活から学校生活へ切り替える役目もあります。

### その② 「第一印象は7秒で決まる！」

人の第一印象は7秒で決まり、約6割は服装や顔つきなどの見た目です。人間の目は、固定的で思っているほど柔軟ではなく、その印象を変えるのは容易なことではありません（やっぱり膝上3cmがキレイですね！→）。



### その③ 「ステキな着こなし」

- ブレザーはシルエットが命です！  
釦の一番下は開けよう！
- シャツは「第二の皮膚」。いつも清潔に！
- スラックスはワンクッションが基本です。
- Vゾーンはあなた自信を映します！
- 全身のバランスをチェックしましょう！



上級生の皆さんも新入生だった頃を思い出して、きちんと、そしてカッコよく東御清翔の制服を着こなしましょう！

ノビたニットは不潔な印象を与えます

# ネクタイの結び方

## プレーンノット



基本中の基本ながら、いまや主流となりつつある結び方です。あらゆる結び方のうちで最も簡単で基本的。着脱によるタイへの損傷も少ないため万人から支持されています。19世紀の中頃に登場と歴史は古いですが、今日においても、使用頻度も応用範囲も一番高い結び方です。今はスカーフのごとくふんわりと締めるのがオススメです。

## ダブルノット



プレーンノットより少しだけ結び目にボリュームを持たせたいときにオススメ。一見、普通に見えて、気がつく人は気がつく、という粋な演出ができる結び方です。ノットを彩るズレは、プレーンノットの大剣を二重巻きする事で出現します。したがって、プレーンノットより当然ノットにボリュームが出ますが、思ったほど大きくならず、むしろ品よく仕上がります。

## ウインザーノット



大きな結び目は長すぎるタイやボリューム不足のノットにも英国王エドワード八世、後のウインザー公の名で有名な結び方。彼が発案者かどうかは定かでないが、これを世に知らしめたのがウインザー公であることは確か。結ぶ際には大剣を左右にかける時に、締め具合を均等にするのがコツ。幅広でボリュームのあるノットになる。

## セミウインザーノット



ウインザーよりも小ぶりな、程よい大きさの三角形のノット別名ハーフウインザーノット。この名が示唆するように、ウインザーノットで大剣を2回掛けた工程を、その半分の1回にしている。よって自然ながらボリュームが少なくなる。結び方としては左右が均等になるよう工夫された合理的なものだといえます。ウインザーノットは結び目が大きすぎるときや、細いタイをあまり細長い結び目にしたくないときに重宝するはず。

ネクタイがだらしなく首から下がっている人をよく見かけます。

ネクタイをきちんと締めて、カッコイイ東御清翔生になりましょう！